

博物館
だより

ミニミニマインズ



第203号

2012.3

第6回 市民開放講座開催

平成24年2月24日（金）、平成23年度第6回鉱業博物館市民開放講座を開催しました。「男鹿半島南岸の津波石」という演題で、鉱業博物館研究員の白石建雄先生に講演をしていただきました。男鹿半島南岸の塩瀬崎に散在する巨大岩塊は「数千年前に起こった大津波で運ばれた“津波石”」であり、「いま、防災を数千年単位の長いスパンでみるのが求められている」という見解を述べられました。過去には日本海側にも何度も大津波があったことを改めて認識させられました。



講演をする白石先生

無料開放のお知らせ

平成24年4月22日（日）

どなたでも終日無料でご覧になれます。
博物館に遊びに来てみませんか！

※第53回科学技術週間 4月16日（月）～22日（日）
標語「～わあほくこんなにみつけたよかがくのたね～」

発明の日（4月18日）を含む1週間は、科学技術に理解と関心を深める「科学技術週間」です。文部科学省の呼びかけに応じ、科学の楽しさに触れられる様々なイベントが全国で開催されます。当館では例年通り、4月22日（日）に無料開放を実施します。

昨年鉱業博物館は大規模なリニューアルを行って展示を一新しています。来館された方から好評を得ています。まだご覧になっていない方はこの機会にぜひお越し下さい。



◆◆◆ 平成24年度 第1回鉱業博物館特別展示のお知らせ ◆◆◆

平成23年度に行った当館の活動を写真パネルでご紹介します。市民開放講座や特別展示、ボランティア講習会など様々な企画に取り組みました。飛躍する博物館をぜひご覧ください。

タイトル：「飛躍する博物館 23年度」（仮題）
日 時：平成24年4月5日（木）～
場 所：鉱業博物館2階 特別展示室



博物館施設をご利用いただきありがとうございます！

●サイエンスカフェ開催

平成24年3月10日（土）当館3階講堂で、秋田大学天文台ボランティア Star Ship 主催の「第11回天文サイエンスカフェ ～ドラマチックな星の一生～」が開催されました。星の話や天体写真の楽しみ方などの講座、デジタル絵本の上演や星砂を使った星座絵の制作等が行われました。

●技術部研修会開催

平成24年3月15日（木）当館3階講堂で平成23年度工学資源学研究科技術部報告会・技術発表会が行われ、50名を超える技術系職員が参加しました。合わせて2階特別展示室では「鉱業博物館100周年支援チームの活動写真展」が開催され、技術部の活動の様子が見られます。（開催は4月1日まで）

鉱業博物館では施設の貸出しをしています。講習会やイベント、作品展示会等にぜひご利用ください。



活動写真に見入る見学者の方



講堂での報告会の様子



サイエンスボランティア募集中!

現在、平成 24 年度サイエンスボランティアを募集しています。
募集要項は下記のとおりです。どうぞよろしくお願いいたします。

3/30 (金) まで

- ◆ 活動内容：見学者への案内と説明
館内環境整備等の鉱業博物館の事業への援助活動
※事前に活動をサポートするための学習会を開催する予定です。
- ◆ 活動期間：1 年間
- ◆ 募集対象：高校生以上であればどなたでも申込できます。
年齢・性別・学歴・職業は問いません。
- ◆ 募集期間：平成 24 年 3 月 30 日 (金) まで
(土日・祝日を除く 9:00 ~ 16:00)
- ◆ 申込先：鉱業博物館 TEL 018-889-2461
E-mail w3admin@mus.akita-u.ac.jp
※アドレスが変わりました

初めての方も大歓迎です。
科学が苦手…という方も
お気軽にどうぞ!
野外研修などもあります。

今年度登録している方も
毎年度の更新となります。
希望の方はご連絡
ください。



お礼の 手紙から

当館では、各学校や団体などに見学に際して、サイエンスボランティアの方による展示案内を行っています。また児童や生徒の皆さんから博物館の仕事についての取材を受けたり、理科学研究の支援なども行っています。そうした活動にたくさんのお礼の手紙をいただきました。一部をご紹介します。

サイエンスボランティアの皆様へ

本校 5 年生の校外学習において大変お世話になりました。ジオパークに認定された男鹿に住みながら、よく理解できずにいた子どもたちが、学習後は男鹿を誇りに思うようになっていたのが、最大の喜びでした。また、サイエンスボランティアの皆さんには、子どもたちの興味・関心を引きつける展示を選んでご案内いただきました。子どもたちからは「ぜひまた行ってみたい」「もっと時間があればいいのに」という声が上がっていました。短い時間ではありましたが、充実した学習ができました。今後とも、本校の子どもたちのよい学習の場として、いろいろ教えていただければ幸いです。(小学校長 一部抜粋)

西川治鉱業博物館専任講師へインタビューをして

ぼくがインタビューで心に残ったことは、研究者は部屋にとじこもって行うのではなく、外に出ていろいろな人とふれあいながら調べるということです。今までのイメージとちがいで屋外での活動が多いということにはとても驚きました。また発見などをするために一番大切な事は、一つの事にとらわれすぎずいろいろな視点で見なければいけないということを知りました。

ぼくは将来自然のことについて研究する人になりたいと思っていますので先生に教えていただいた事に気をつけて、発見できる研究者になりたいと思いました。(小学 6 年児童 一部抜粋)



標本の紹介 三角式黄銅鉱結晶

三角式黄銅鉱結晶は、普通に良く見られる四面体に近い結晶と異なって三角形の板状や針状の特徴的な形態を持つものに付けられた名称です。日本以外では報告例がなく、我が国の新第三紀の火山岩や堆積岩中の鉱脈に産出し、特に秋田県大仙市(旧協和町)荒川鉱山や宮田又鉱山が有名です。

荒川鉱山で明治年間に産出したものはその形態が多様で量も多く、1937年に「黄銅鉱の三角結晶」として世界に紹介されました。研究者はもちろん、世界中のコレクターの関心を集めています。

当館ではこの貴重な三角式黄銅鉱結晶を多数展示しています。



石英(水晶)の表面の黄銅鉱結晶(荒川鉱山産)



写真は上から時計の逆まわりに、三角楔状 → 三角板状 → 三角針状と結晶の形の変遷を示しています



きれいな三角板状の結晶



針状の結晶